

2/25(土)

10:00—
124分



『小国春熊猟 2016』★

山形県小国町における春熊猟の記録
[撮影]林剛平 [撮影地]山形県小国町
[撮影日]2016年4月 [制作年]2016年

13:00—
30分

トークあり



『5年後の飯館村調査』

東京電力福島第一原子力発電所事故から5年経った2016年3月26日、飯館村において放射能汚染調査をした際の風景です。今中哲二助教(京都大学原子炉実験所)を中心として、2011年3月より毎年調査しています。
[撮影]林剛平 [撮影地]福島県飯館村
[撮影日]2016年3月26日 [制作年]2016年

15:20—
48分



『村に住む人々』★

僕の生まれ育った村は海になっていた——東京での被災、郷里の相馬市磯部に戻り、家族や安否確認で出会う友人たちにあの日からのことを問いかける。そして3年。僧侶の父が執り行う法要、先輩後輩らが奉納して回る神楽。営みを続ける地域の姿を記録していく。
[制作]岩崎孝正 [撮影地]福島県相馬市
[撮影日]2011年3月—2014年5月 [制作年]2014年

16:25—
42分



『広域避難者の今を考える』★

東日本大震災の影響により北海道内に避難されている方々に向けた支援事業を受託している「一般社団法人北海道広域避難アシスト協会」代表理事の佐藤伸博さんに、その活動や避難者の状況や抱える課題などについて伺いました。
[企画]てつがくカフェ@せんだい
[協力]一般社団法人 北海道広域避難アシスト協会 [記録]濱田直樹
[撮影地]宮城県仙台市 [撮影日]2016年5月26日 [制作年]2016年

14:30—
各7分

ラジオでつがくカフェ関連記録
福島県立相馬高校放送局制作
音声ドキュメント

『緊急時避難準備不要区域より』

『Blind』

『Atomic town』

震災後の南相馬市、視覚障がいのある方の震災体験、浪江町から見た福島第一原発。そこにある、人びとの生活や気持ちに寄り添う音声ドキュメントを3本お送りします。高校生の視点から震災や原発事故を見つめ、映像や音声記録を制作し伝え続ける、相馬高校放送局の活動の一部です。
[記録地]福島県 [制作年]2011、2014、2015年

17:20—
28分



『沿岸部の風景 —岩手県大槌町・陸前高田市—』★

震災から2年間、不定期に訪れた被災地の映像より、岩手県大槌町と陸前高田市の風景。そしてそこで出会った人たちの記録です。荒れ地の真ん中で畑を耕す人、墓を修復する人、家の跡地の花の手入れをする人。戸惑いながらその時をそこで生きる人たちの、確かな時間。
[監督]鈴木啓太 [撮影地]岩手県大槌町・陸前高田市
[撮影日]2011年9月、2012年8月 [制作年]2013年

18:10—
68分



『波のした、土のうえ』★

陸前高田で出会った人から聴いた話を元に紡いだ物語を、語ってくれた本人に朗読してもらい、その声とまちの風景を重ねた映像。津波により失われた大切な人びとと住まい。かさ上げ工事により失われたまちのあと。喪失に向き合う一人ひとりの姿に、制作者は丁寧に寄り添いました。
[制作]小森はるか+瀬尾夏美 [撮影地]岩手県陸前高田市
[撮影日]2012年4月—2014年9月 [制作年]2014年

2/26(日)

10:00—
15分



『仮設でカラオケ仮装大会「みんなで歌うっぺ!」』

宮城県名取市の美田園第一仮設住宅で、仮装カラオケ大会がありました。地元の方々とみんなの笑い声が、仮設住宅の集集場に集まった人々を優しくつつみます。
[制作]柳引祐希子 [撮影地]宮城県名取市美田園第一仮設集会所
[撮影日]2016年3月4日 [制作年]2016年

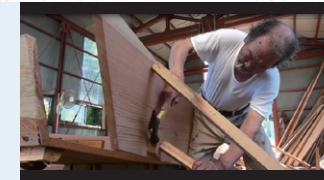
16:05—
9分



『車載映像 宮城野区蒲生 2013.6.25』

県道10号線から七北田川沿いの139号線に入り、蒲生の海岸付近までを撮影した2013年の記録です。津波被害を受けた家や住宅基礎、中野小学校跡地など、町の痕跡が映像に残っています。現在、この道程は土地区画整理事業の防潮堤工事で通行止めとなっており、見る事ができません。
[記録]木村グレゴリオ [撮影地]宮城県仙台市宮城野区
[撮影日]2013年6月 [制作年]2013年

10:30—
120分



『さぐば』★

かつて「さぐば」と呼ばれる木造小舟があり、海、浦、川の作業場として使われていたことを、閉上の方にお話を聞く中で知りました。その復元のため歌津の岩石孝喜棟梁に会いました。大型の復興土木事業と並行して行われていた、舟を手で作ることの記録です。
[撮影]小森はるか+瀬尾夏美 [撮影地]岩手県陸前高田市
[撮影日]2016年5月—9月 [制作年]2016年

16:14—
30分



『3.11オモイデツアー』

3.11以前のまちと人に出会うたび(蒲生編)』
「まちと人、人と人をオモイデで結ぶたび」をテーマに、仙台市沿岸部の蒲生に一日滞在するツアー。鳥やカニなど生物が戻りつつある「蒲生干潟」をゆっくり散策し、日本一低い「日和山」登山をしながら交流を深め、11月の回では参加者全員で芋煮会を楽しんだ記録です。
[企画・制作]3.11オモイデアークライブ/佐藤正実
[撮影・編集]佐藤敏行 [協力]高砂市民センター、中野ふるさと学校、蒲生のまちづくりを考える会、舟要の館 [撮影地]宮城県仙台市宮城野区蒲生 [撮影日]2016年9月3日、11月5日 [制作年]2017年

13:30—
19分



トークあり

『石と人』

津波により家屋全てがなくなった陸前高田市森の前地区。そこに残された五本松の巨石は、その土地に暮らしてきた人びとのよりどころであった。この映像は、巨石を中心としたその地域の復活と、新たな伝承のはじまりを志す佐藤徳政さんの活動記録です。
[制作]小森はるか+瀬尾夏美 [撮影地]宮城県石巻市
[撮影日]2014年—2016年 [制作年]2016年

17:00—
20分



『この町から問いかけて』

2015年、仙台市荒浜の市営バス停留所跡地に、手作りらしきバス停が現れました。本作は、この「偽バス停」の作者が荒浜で人知れずおこなっていた活動の記録映像です。震災後に残された土地とどのような向き合い方があるのかを、映像を通してあなたに問いかけます。
[制作]佐竹真紀子 [撮影地]宮城県仙台市若林区荒浜
[撮影日]2015年6月—12月 [制作年]2016年

14:50—
35分



『石巻災害ボランティアセンタースタッフインタビュー』★

2011年9月、わたしたちは1カ月間東北を移動滞在しながら、福島・宮城・岩手・青森の沿岸市町村の災害ボランティアセンターを一つずつ訪ね、運営スタッフの方のお話を伺った。その一片を編集したインタビュー映像。
[制作]小森はるか+瀬尾夏美 [撮影地]宮城県石巻市
[撮影日]2011年9月 [制作年]2014年

17:20—
30分



『3.11オモイデツアー』

3.11以前のまちと人に出会うたび(荒浜編)』
昭和時代の写真と地元の方々の「オモイデ語り」から、かつての荒浜の風景をイメージしてもらった滞在型ツアーを2015年より実施しております。地元の方々と一緒に企画を進め、初の一般公募となった10月の回と市営バス貸切で実施した12月の様子です。
[企画・制作]3.11オモイデアークライブ/佐藤正実
[撮影・編集]佐藤敏行 [協力]荒浜再生を願う会、海辺の図書館
[撮影地]宮城県仙台市若林区荒浜
[撮影日]2016年10月9日、12月11日 [制作年]2017年

15:25—
21分



『中屋敷』★

津波の被害を受け、まだ泥かきが済んでいないご自宅で、震災当日や家族のこと、お互いに協力し合い家屋清掃することなどについて、お話を伺いました。撮影した2011年5月、庭では津波に耐えた柿の木が芽吹きはじめていました。
[監督]中村友紀 [撮影地]宮城県石巻市
[撮影日]2011年5月2日 [制作年]2011年

17:50—
9分



『HOPE FOR project 2015』

震災後の毎年3月11日、地元小中学校の卒業生が中心となり、花の種を入れた風船を荒浜の空へリリースする追悼企画を実施。廃校となる荒浜小学校の音楽室にて荒浜に縁のあるアーティストによる演奏。3月11日の帰路が少しでも穏やかであるように。
[企画]HOPE FOR project [撮影・編集]RUDOLF
[撮影地]宮城県仙台市若林区荒浜
[撮影日]2015年3月11日 [制作年]2015年